

## 平成23年第2回 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日時：平成23年7月28日（木）  
午後3時30分～午後6時  
場所：帯広市役所 10階  
第6会議室 第5A会議室

### ■ 出席委員

辻委員（座長）、堀委員、丸山委員、鳥本委員、山下委員、中岡委員、廣瀬委員、白石委員、高橋委員、飛岡委員、吉田委員、砂田委員、笠井委員、宮嶋委員、紺野委員、沼田委員、鈴木委員、新沼委員、大西委員、福原委員、斉田委員、赤間委員、長澤委員

### ■ オブザーバー

音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町

十勝町村会、十勝圏複合事務組合、十勝総合振興局

産業振興・地産地消部会、医療・福祉部会、教育部会、人材育成部会、企画部会、環境部会、消費生活部会、電算システム部会

### ■ 事務局

伊藤政策推進部長、山崎政策推進部政策室長、橋向政策室政策副主幹、高橋政策室政策主査、山本政策室主任

### ■ 会議次第

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) これまでの協議経過について
  - (2) 圏域の将来像などについて
  - (3) 具体的な取組みについて
- 3 その他
- 4 閉会

## ■ 議事要旨

### 1 開会

### 2 議事

○委員29名中23名が出席し、過半数に達しているので、設置要綱第6条第2項の規定により、会議が成立している旨を報告

○前回の懇談会の議事要旨について確認し、了承

#### (1) これまでの協議経過について

##### 【座長】

「これまでの協議経過について」を議題とする。事務局から説明いただきたい。

— 資料3～5に基づき事務局説明 —

##### 【座長】

ただ今の説明について、質疑を行う。ご質問等があれば、ご発言いただきたい。

(質問等なし)

#### (2) 圏域の将来像などについて

##### 【座長】

次に、「圏域の将来像などについて」を議題とする。事務局から説明いただきたい。

— 資料6に基づき事務局説明 —

##### 【座長】

事務局より、委員の意見とそれをどのように「圏域の将来像」に反映したのか説明があった。それでは、この事務局から提示された「圏域の将来像」に関しての意見交換を行いたい。ご質問やご意見等がある方はお願いしたい。私も読んだが、これだけの膨大な意見をこの1ページに収めるのは、なかなか難しいことだと思う。

この「圏域の将来像」に関しては、今回でオーソライズされたものを原案として、パブリックコメントを実施する予定なので、十分に意見交換をやりたいと思う。

##### 【委員】

まとめたものを見て、非常に素晴らしいと思って見ていたが、やはり十勝というのは、環境から良い条件が揃っているのではないかと考えている。

しかし、日本はもちろん世界中でも地域をそれぞれ形成しているわけだから、そういう意味では地域の問題というのは、世界共通ではないかという気がする。そういう意味で、これらの意見が集約されて、日本はもとより世界の模範となるような、そういう地域づくりをしていくという意味では、とても良い意見がたくさん出ていると感じた。

今回の定住自立圏の中の自立ということだが、私は今まで教育関係の仕事をしてきたが、親離れしない子供だとか、子離れしない親だとか、そういうのがずいぶんと問題になっていて、自立というのは非常に難しい。この地域の自立ということも、地域の人達が本当に真剣になって考えないとできないと思う。

十勝が本当に自立しているのかと考えた時に、疑問に思うところがたくさんある。エネルギーはどの程度十勝で自給しているのかと考えると、まだまだ少ない感じがするし、食料自給率 1,100%という数字も出ているが、芋とかビートとか小麦はたくさんとれているけれど、実際に食卓に上がるいろいろな食品を考えると、自給率はそんなに高いのだろうかという感じがする。

1,100%というのは、カロリーで言っているのかもしれないが、やはり自立しようと思ったら、いろいろなものを自分達で作っていくというのが基本ではないかと思う。それが十勝の強みになってくる。

そのように考えると、まだやれることはたくさんあるような気がする。自給率を高めるという視点を全体の中で持っていく。人に頼らないで自分達でどんなことでもやっていく。そういう基本的な考えに立てば、今までなかったいろいろな産業も起こっていくし、たくさんの人を養っていきけるような地域もできるのではないか。

#### 【事務局】

非常に難しいお話をいただいたが、エネルギー全体の政策などの大きいところは国の方に任せたいが、地域で自然エネルギーを活用していくという方向は間違いないと考えている。

また、地域が自立していこうというのが、今回の定住自立圏の一つの大きな目的なので、そういった部分では委員の考えと違わないと思う。今回提示した将来像のはじめの部分で、そういったところを書かせていただいている。

#### 【委員】

私は、自給にそれほどこだわる必要はないと思う。今は世界貿易で、世界と世界の国の付き合いがあり、ましてこの日本というのは、資源が余りある国ではない。お互いに輸入をしたり輸出をしたり、そうやって利用し合っていくのが、これからの世界だと思う。だから自給率を 100%にしなければならないという意見には同意しかねる。

#### 【委員】

資料2のフレーズの2つ目のところだが、19市町村それぞれが、基本的にこれで良いと認識しているのかという点を尋ねたい。「19市町村が役割を分担しながら相互に連携し」という部分を、具体的にどういうふうにしていくのかということが大事だと思う。その説明が、「この協定のもとに」というところを書いてあると思うが、実際にはもう少し複雑で難しい関係になるのではないか。

今後、これを具体化していく時に、19市町村それぞれが何をして、相互にどう連携していくのかということが、わかるような書きぶりをしていかなければならないと感じた。

#### 【事務局】

書くのは易しいが実態はなかなか難しいというご意見だったと思う。今回の共生ビジョンは、今スタートを切ったところである。皆様からいただく意見が今後の取組みを更にス

テップアップさせていくので、ここら辺の書きぶりが実態に即していくと考えている。

#### 【委員】

将来像の自然についてのコメントで、「十勝は、周囲を大雪山系、日高山脈、太平洋などに囲まれ」とあるが、ここに例えば「北を大雪山系、西を日高山脈」というように、方位を入れるともっと具体的になり、地形がイメージできる。

自然の力やエネルギーを活かすという意味において方位は重要で、具体的に十勝の地形のイメージを読んでいる方に伝えられる。

#### 【事務局】

文言の表現も含めて検討する。

#### 【座長】

他になければ、各論の方に時間を多くとりたいので、圏域の将来像については、私と事務局で今伺った意見を調整したいと思うがよろしいか。

(異議なし)

将来像については、事務局と私で調整させていただく。

### (3) 具体的な取組みについて

#### 【座長】

それでは次に「(3) 具体的な取組みについて」議題とする。事務局から説明いただきたい。

#### －資料6～9に基づき事務局説明－

#### 【座長】

今、事務局より、今後の全体的なスケジュールと本日のスケジュール、それから他圏域の事例が報告された。

前回の懇談会において、十勝定住自立圏の取組みは19市町村全体なのか、帯広市と個々の町村との取組みなのか良く分からないという質問があったので、他圏域の事例をあげて説明をいただいた。宗谷の事例では、全体で行うものと関係する市町村だけで行うものがある。これを見ると具体的なイメージが良く掴めるのではないかと。

十勝圏については、まずはスタートラインということで、全町村が取り組めるものを取り上げたということだが、この懇談会で委員に求められているのは、19項目のオーソライズというよりも、本当にこれだけでいいのかということ。

資料7のスケジュールに載っているが、先ほどの圏域の将来像は、原案としてパブリックコメントを実施するが、個々の取組みに対する意見は町村間の協議を行い、直ちに反映できるものは反映するが、検討が必要なものは、第3回の懇談会を経て、継続協議となっていくのではないかと考えている。

そういうことで、この19項目に足りないものをとらえることもそうだが、委員の皆さんの知見をもって、「まだこんなこともあるぞ」とか「この分野ではこういうことも、今回はできないけれど、将来的に十勝の圏域形成の中でやって欲しい」ということを、意見と

してあげていけば、それを行政としてどう取り組んでいくかということになるかと思う。  
ただいまの事務局の説明に関して、ご意見、ご質問はあるか。

**【委員】**

議会の意見は、市町村間協議の時に反映されると考えても良いのか。

**【事務局】**

共生ビジョンの原案については、帯広市は委員会で説明させていただくが、その中で例えばこういうことをやったら良いのではないかという意見が出て、帯広市としてもそれを町村と連携すべきではないかとなったら、それは町村と協議をさせていただくということであり、町村も同様であると考えている。

**【委員】**

他になければ、具体的な取組みに関する意見交換を行う。

《2つのグループに分かれて協議（意見交換）を実施》

**■グループ編成**

Aグループ

分野：医療、福祉、教育、移住・交流

委員：堀委員、丸山委員、鳥本委員、山下委員、中岡委員、廣瀬委員、  
白石委員、高橋委員、飛岡委員、吉田委員、砂田委員

進行：辻座長

Bグループ

分野：産業振興、地産地消、環境、防災、地域公共交通

委員：笠井委員、宮嶋委員、紺野委員、沼田委員、鈴木委員、新沼委員  
斉田委員、赤間委員、大西委員、福原委員、長澤委員

進行：事務局（山崎政策室長）

**■グループ協議で委員から提案された意見**

別紙 「十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会

具体的な取組みに関する懇談会委員からの意見の概要」のとおり

《グループ協議が終了し、全体協議を再開》

**【座長】**

全体協議を再開する。各グループの意見交換の結果を報告いただきたい。

－ A、B両グループの主な意見を事務局から報告－

**【座長】**

ただいま、各グループより意見の報告があったが、これらに更に付け加える意見はない

か。時間もないので、意見集約シートに書いて提出いただきたいと思うが、特に、この場で言っておきたいということがあれば2、3伺いたい。

**【委員】**

福祉に関して、帯広市は米国ウィンスコンシンのマディソン市と姉妹提携していて、その提携の中の大きな目的の一つが、広域のオープンな形の精神ケアのシステムを作っていく、マディソンモデルを学ぶということがある。実際に一生懸命向こうに行って働いて、少しずつ機能しているように思う。だから、広域の精神ケアの一つのシステムとして、ぜひ載せておいていただきたい。

**【委員】**

人材育成に関してだが、提案が伝わってないかと思うので、繰り返しになるが、畜大でやっている人材育成事業が非常にうまくいっている。非常に活発だということがあって、自治体の職員研修というよりは、自治体の職員が参加した方が良いという、そういう意味で先ほど伝えた。もう一度考えて欲しい。

**【座長】**

検討していただきたいということですね。他にはないか。  
(意見なし)

### 3 その他

**【座長】**

それでは次に「3. その他」を議題とする。事務局から説明いただきたい。

— 次回の開催等について 事務局説明 —

**【座長】**

ただ今の説明について、ご質問等はないか。  
(質問等なし)

委員の皆様から、全体を通じての確認や質問等はないか。  
(質問等なし)

**【座長】**

それでは、本日の懇談会は、これにて閉会する。

別紙

十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会 具体的な取組みに関する懇談会委員からの意見の概要

Aグループ

分野	意見の概要
医療	救急医療や検診など帯広市に患者が流入している現状を踏まえて、周辺町村だけでも構わないので、連携関係の構築を進めるべきではないか。
医療	地域医療支援センターの機能が効果的に発揮されるような運営の検討が必要ではないか。
医療 地域医療体制の充実	医療スタッフ不足、特に町村では看護師不足が課題となっている。看護系大学も含め、その課題の解決に向けた検討が必要ではないか。
医療 救急医療体制の確保	救急搬送について、現場への到着時間やドクターとのホットラインなど、現状がどうなっていて、今後どのような展開を考えているのか。救急医療ではそこが一番重要なポイントではないか。
福祉 保育所の広域入所	卒園間近の時期に近隣の市町村に転居した場合、せめて卒園まではこれまで通っていた保育園に通わせたいのが保護者の願いである。児童福祉の観点から弾力的な運用ができないか。
福祉（障がい福祉）	障がい者が自立するためには、雇用の確保が重要であるが、小さな町村では企業が少なく困難である。企業が集積している帯広圏と連携した取組みができないか。
福祉（障がい福祉）	地域活動支援センターやグループホームの設置など障がい福祉について、市町村間で情報交換や職員の交流を行う協議・検討の場を設けてはどうか。
福祉（障がい福祉）	障がい者の能力や適正を活かして地域で暮らすためには、利用可能な福祉サービスを提案し、事業者間の調整を行う相談支援事業の充実が不可欠である。「相談支援事業の広域実施」に取り組んではどうか。
福祉（障がい福祉）	帯広市は米国ウィンスコンシン州のマディソン市と姉妹提携していて、その提携の中の大きな目的の一つが、広域のオープンな形の精神ケアのシステムを作っていく「マディソンモデル」を学ぶということがあり、少しずつ機能している。 広域的な精神ケアの一つのシステムとして、取り組んではどうか。
教育 生涯学習の推進	国、道の施設を含め、各市町村にどのような施設があり、どのような役割を果たしているのかを検証して、どのような連携ができるのかを考えていく必要があるのではないか。
教育	社会教育に関する連携も必要だが、学校教育に関して十勝独自の取組みが必要ではないか。
その他	生涯学習に関しても、一番根底にあるのは地域のコミュニケーションである。コミュニケーションが無いと地域連携はできないと考える。

分野	意見の概要
産業振興 広域観光の推進	もう一度行きたいと思うところの多くは景観が素晴らしいところである。十勝らしい自然を活かした景観づくりに取り組んではどうか。
産業振興 広域観光の推進	農業体験や牧場体験など十勝ならではのメニューを売りにして、教育旅行、就学旅行の誘致に向けたPRに取り組んではどうか。
産業振興 広域観光の推進	東十勝のホーストレッキング（ロングトレイル）の事業を推進してきている。この取組みを共生ビジョンに掲載すべきではないか。
産業振興 地域ブランドづくり	十勝ブランドを世界に通用するブランドとするためには、高付加価値、高品質であることの証明が求められる。認証機構の整備などブランドの確立に向けた仕組みづくりが必要ではないか。
産業振興 地域ブランドづくり	十勝には、力のある商品が数多くあるのにPRが下手である。それは、19市町村がバラバラにやっているため、十勝ブランドの確立に向けては、十勝が一体となって取り組むことが必要ではないか。
産業振興（雇用）	十勝型の高齢者構想を持つべき。高齢化が進む中で、生産人口の確保や健康増進の観点から、高齢者の雇用の場をつくる必要があるのではないか。
産業振興 農業振興と担い手育成	農業の担い手の育成には、農業者だけでなく、他の産業などもっと幅広い交流が必要ではないか。 また、消費者重視の視点を取り入れた育成カリキュラムを作る必要があるのではないか。
環境 低炭素社会の構築	十勝の中でも、地域によって環境への意識に差があるの現状である。地域間の交流を深めながら、人的環境をつくり上げていくことが必要ではないか。
環境 低炭素社会の構築	再生可能エネルギーや省エネ機器の促進には、民間の力を借りた宣伝PR活動を大々的に行うべきである。また、家庭での省エネの取組みをPRするために学習会などをおこなってはどうか。 低炭素社会の構築には、民間の力と家庭の力を借りることが必要。
環境 低炭素社会の構築	地球温暖化防止に向けた低炭素社会の構築に関する共生ビジョンの取組概要の記載は、ハード的な整備よりも環境意識の啓発の方が先にあるべきではないか。
防災 地域防災体制の構築	災害時の医療体制について、特に町村において医師の確保が難しいことから、電話一本で対応できるような窓口が必要ではないか。 また、災害の項目の中に、何らかの形で「医療」が入るべきではないか。
防災 地域防災体制の構築	十勝は広く、内陸の市町村には関係ないかもしれないが、太平洋側の4町村にとっては、地震が起きれば津波が来る。十勝全体の防災を考えるならば太平洋側のことも考慮すべきではないか。
防災 地域防災体制の構築	実際に災害が発生した場合に、市町村がどのように連携し、支援をしていくのかについて、シミュレーションをすべきではないか。
地域公共交通	バス利用を促進する取組みとして、圏域外の住民が気軽に路線バスを利用できるような観光の視点を入れた取組みが必要ではないか。
人材育成	畜大で行っていた人材育成事業が内容が濃く非常にうまくいっていたが、自治体の職員が一人も参加していない。この後継的な事業については、自治体職員も参加し、官民の枠にとらわれずに一緒に勉強・交流し、十勝の人材を育成していくことが必要ではないか。